

## 海洋理工学会平成18年度春季大会プログラム

日時：平成18年5月18日（木）19日（金）  
場所：日本科学未来館 みらいCANホール、会議室1  
東京都江東区青海2-41  
新交通ゆりかもめ「船の科学館」または「テレコムセンター」下車5分

5月18日（木）9：45～17：00 シンポジウム（会場 みらいCANホール）

### 「海底土砂採取の海洋生態系への影響とその修復－水底に残る負の遺産の解消をめざして－」

主催：海洋理工学会

共催：(独)鉄道建設・運輸施設整備支援機構

9：45～ 開会挨拶 小崎文雄（(独)鉄道建設・運輸施設整備支援機構）  
趣旨説明 中田喜三郎（東海大学）

#### 第1部 海底土砂採取の現状と生態系への影響

- 10:00～10:35 S1. 東京湾における浚渫窪地の現状と問題点  
中村由行((独)港湾空港技術研究所)
- 10:35～11:10 S2. 三河湾における苦潮によるアサリ大量死と浚渫窪地内部の貧酸素化の状況  
武田和也・石田基雄(愛知県水産試験場)
- 11:10～11:45 S3. 瀬戸内海における海砂採取の現状と漁業資源への影響  
反田 實(兵庫県農林水産技術センター)
- 11:45～12:20 S4. 浚渫が水環境に及ぼす影響  
山室真澄((独)産業技術総合研究所)

#### 第2部 三河湾における浚渫窪地の修復

- 13:20～13:55 S5. 浚渫窪地修復の考え方と修復事例  
石田基雄・鈴木輝明(愛知県水産試験場)
- 13:55～14:30 S6. 浚渫窪地修復効果の定量的評価手法開発その1－底生生物群集の変化予測  
豊原哲彦・今尾和正((株)日本海洋生物研究所)
- 14:30～15:05 S7. 浚渫窪地修復効果の定量的評価手法開発その2－窪地における微細な物理環境  
解析  
大見智亮・寺澤知彦・市川哲也((株)中電シーティーアイ)・中田喜三郎(東海大学)

15:30～17:00

#### 第3部 パネルディスカッション・総合討論

司会：中村由行

パネラー：国土交通省中部地方整備局三河港湾事務所所長、船越茂雄(愛知県水産試験場)  
他

17:30～19:00 イブニングミーティング

5月19日(金) 9:30~16:50 一般講演 (会場 会議室1)

9:30-10:30 海洋観測 座長 石原靖文 (日本エヌ・ユー・エス)

- A1. Full3D による浅海底窪地付近の流動解析 ○大野創介・中田喜三郎 (東海大)  
A2. 中海の水質に関する古今の比較研究 岩見智史○中田喜三郎 (東海大)  
A3. 朱鞠内湖における流動・水質シミュレーションモデルの構築  
○中田 喜三郎(東海大)・沓掛 洋志・畑 恭子(国土環境)  
A4. 2000 年度、有明海に発生した赤潮と塩分挙動についての考察  
○釘宮秀友・中田喜三郎 (東海大)

10:30-11:40 生態系モデル・海洋化学 座長 中田喜三郎(東海大)

- A5. 清水港の流動モデル開発  
○山本祐也・中田喜三郎・千賀康弘・大野創介・釘宮秀友・野呂篤・Rajani Kanta Mishra (東海大)  
A6. Seasonal distribution of Pico phytoplankton in algal community at Shimizu port, Northwest of Suruga bay Japan  
○R.K.Mishra, Y.Senga and K. Nakata (Tokai Univ)  
A7. 発生初期のバフンウニにおけるCuPTの急性毒性  
○亭島博彦・水谷悦子・小海茉莉絵(海生研)・堀口文男(産総研)  
A8. ZnPTの銅イオン存在下でのCuPTへの変化に関する実証毒性試験  
○亭島博彦・安井久二(海生物)・堀口文男(産総研)

11:40-12:00 総会・学会賞表彰

13:30-15:10 センサー 座長 千賀 康弘(東海大)

- A9. 多波長励起蛍光測定装置の開発と植物プランクトン種組成測定への利用  
○堀内智啓(アレック電子)・秋葉 龍郎(産総研/RICE)・長澤泰宏(アレック電子)千賀 康弘(東海大)  
A10. 蛍光ライダーによる流出油の探査  
○篠野雅彦(海技研)・樋富和夫・山之内博・山岸進(海洋大)  
A11. ICP-MS 試料前処理におけるマイクロウェーブ分解法の検討  
○石森麻純・山本秀樹(マリン・ワーク・ジャパン)  
A12. トライトンブイによるセンサ長期比較実験  
○松本健寛・安藤健太郎(JAMSTEC)・小梨昭一郎(アレック電子)  
関本道夫(鶴見精機)・黒田芳史(JAMSTEC)  
A13. Intercomparison of Current Meters in the Coastal Area of Ariake Sea  
Toshiyuki Kaneko, ○Yoshiro Muraoka, Takamichi Mimori and Kisaburo Nakata

15:10-16:50 観測機器 座長 門馬 大和(JAMSTEC)

- A14. 汽水・沿岸域調査のためのローコスト・コンパクトな音響調査機器(その3)ーサイドスキャンソナーの記録例ー  
○西村清和・上嶋正人(産総研)・徳岡隆夫・吹田 歩(徳岡汽水環境研究所)竹内俱佳(電気通信大)  
A15. 海底地形データの品質評価の一例 ~データの比較~  
○細谷慎一(日海事)・岩瀬良一(JAMSTEC)  
A16. Evaluation of Rotating Mechanism to Measure Target Strength (TS) Pattern of Aquatic Organism  
○Ken Ishii, Koki ABE, Kouichi Sawada and Yoshimi Takao (NRIFE, FRA)  
A17. 海中観測ロボット用非接触パワーサプライと高速音響 LAN の実用化試験  
○韓軍・浅田 昭・浦 環 (東大生産研) 山内幸長 (北伸電機) 八木田康信 (本多電子)

## ポスターセッション

- P1. 瀬戸内海におけるリスク評価モデルについて  
江里口知己・桃井幹夫・市川哲也・酒井亨(中電シーティーアイ)  
堀口文男(産総研)・中田喜三郎(東海大)
- P2. メタンハイドレート開発に伴う海域環境への影響評価の取組み  
○鋤崎俊二・中澤貴尚・大川健(海生研)鈴木信也(財エンジニアリング振興協会)
- P3. 溶存メタンセンサーの改良  
○深澤強・穂積清介・森田幹・桶谷能史(石川島検査計測) Michel Masson(FRANATECH GmbH、  
前 CAPSUM Technologie GmbH) 田中一宏(山口大)・原保則・林光浩(CT&T)
- P4. JAMSTEC応用技術部について  
○佐藤 専
- P5. Full3D による浅海底窪地付近の流動解析  
○大野創介・中田喜三郎(東海大)
- P6. 中海の水質に関する古今の比較研究  
岩見智史○中田喜三郎(東海大)
- P7. 2000 年度、有明海に発生した赤潮と塩分挙動についての考察  
○釘宮秀友・中田喜三郎(東海大)
- P8. 清水港の流動モデル開発  
○山本祐也・中田喜三郎・千賀康弘・大野創介・釘宮秀友野呂篤・Rajani Kanta Mishra(東海大)
- P9. Seasonal distribution of Pico phytoplankton in algal community at Shimizu port, Northwest of Suruga bay Japan  
○R. K. Mishra, Y. Senga and K. Nakata (Tokai Univ)